

松本市立博物館整備に関する諸構想・計画での位置づけ

1 松本まるごと博物館構想（平成 12 年 6 月）

(1) 策定の趣旨

市民の学習や文化活動に対する意欲が高まり、生涯学習の充実が重要な課題となっている社会情勢のなか、国際化・高度情報社会に対応し、松本市立博物館を推進母体として市内の博物館施設と地域社会の絆をより強め、博物館が従来果たしてきた機能も重視した、21 世紀にふさわしい総合的な整備・運営を進めるための基本構想として作成するものです。

(2) 名称

名称は「松本まるごと博物館構想」とし、この構想は松本市立博物館と市域の自然環境や文化・産業等の遺産を有機的に結びつけ、市民の生涯学習と地域の振興に寄与することを目的とした新たな博物館像を創出するための構想です。

(3) 基本理念

ア 松本まるごと博物館とエコミュージアムの考え方

松本まるごと博物館は、市全域を活動範囲として展開を図ります。松本市立博物館を「中核施設」に、点在する附属施設（現分館）の一部を「準中核施設」に位置づけ、松本まるごと博物館の核とします。そのほか「テーマ拠点施設」や、自然環境や文化・産業等の遺産などを「資源」に位置づけ、これらを有機的・効率的に結びつける動線として「見学ルート」を整備し、市民相互の交流と観光客の誘致を含めたネットワーク化を図ります。

イ 基本理念

- (ア) 松本の豊かな自然環境や文化・産業等の遺産を活用し、地域振興に寄与します
- (イ) 市民が主体的に関わることで、市民生活に精神的な潤いを与えます
- (ウ) 高度情報化社会に対応する、情報の収集と発信の拠点とします
- (エ) 博物館がこれまで果たしてきた役割を重視し、市民の学習及び研究の拠点とします

(4) 施策の大綱

ア 博物館機能の重視と施設の活用－新たな博物館像の創出－

博物館本来の機能を重視し、市域点在型博物館という松本市の特徴を最大限にいかした新たな博物館像を創出します。

- (ア) 「中核施設」としての市立博物館の移転・整備

(5) 「松本まるごと博物館」の全体像

ア 特徴と全体像

(ア) 中核施設

「松本まるごと博物館」の中核施設（基幹博物館）を市立博物館とし、市域の風土を概観できる機能を有し、地域の調査、探究、学習をおこなう施設として移転整備します。

(イ) 準中核施設

既存博物館施設の一部を機能再編し、市民の専門的または地域的利用に応えるため、「中核施設」を補完する施設として位置づけます。

(ウ) テーマ拠点施設及び資源

既存博物館施設のうちあるテーマに基づいた施設と、自然環境、地域で培った生活文化、さまざまな遺産等を、「松本まるごと博物館」の活動拠点として位置づけます。

2 松本市基幹博物館基本構想（平成 20 年 3 月）

(1) 現状と課題

ア 建物・設備の老朽化と松本城整備に向けて

開館から 40 年近くを経過していることから、施設・設備の老朽化や、市民の学びのために広く資料等情報提供すべき施設であるにもかかわらず、資料室や図書室、市民研究質的なスペースがなく、市民の利用はむつかしく、展示室も団体客に対応する設備や空間が不足しています。また様々な利用者に対して、施設的に見ればユニバーサルデザインを満たすことができず、休憩スペースなどの不足による問題もあり利用者の立場に立った対応が迫られています。

これに加え、「松本城およびその周辺整備計画」や、松本城の世界遺産登録に向けたまちづくり推進のためにも、博物館は国史跡に指定されている現地から移転、新築するとともに、松本市ー松本城と城下町ーの価値をより一層高める方法を考えることが求められています。

(2) 立地や建築条件など

基幹博物館建設の目的は、松本市のまちづくり・ひとづくりの拠点となるほか、全国から松本の地を訪れる観光客の憩いと学習の空間、さらに市街地の活性化に寄与することにあります。

そのため基幹博物館の立地場所は市街地であることが望まれ、かつ建設に十分なスペースを確保することが必要です。基幹博物館の立地は、「松本まるごと博物館」というフィールド・ミュージアムの中核施設としての役割を担うこと、松本地域の活性化に資することが求められていることなどから、できる限り以下のような立地条件や建築要件で設計・建設することが望ましいと考えます。

（5 項目の要件略）

3 松本市基幹博物館基本計画（平成 21 年 3 月）

(1) 松本市立博物館を取り巻く状況

ア 開館以来の経過

(ア) 現施設は昭和 43 年（1968）に建設され、当時から地方都市における総合博物館として注目されましたが、建設後 40 年を経過し、施設・設備の老朽化、狭隘化が進むいっぽうで、来館者のグローバル化、市民意識の多様化などへの対応が求められています。

(イ) 現在、博物館は国史跡松本城の中に立地しており、平成 11 年に松本市が

策定した「松本城およびその周辺整備計画」を推進するために、現在地から移転し、松本市一国宝松本城と城下町一の価値を高めることが望まれます。

イ 松本市立博物館の現状と課題

(ア) 収蔵資料の増加

(説明略)

(イ) 建物・設備の老朽化、狭隘化、展示更新など

(説明略)

(ウ) 「松本まると博物館構想」の中核施設の整備

- ・基幹博物館は、「松本まると博物館」において運営・活動の中核施設と位置づけます。そのため、市域の風土を概観できる機能を有し、地域の調査・研究、学習を行う施設として整備します。
- ・基幹博物館は、個性豊かな博物館附属施設（現分館）のガイダンスセンターとしての機能を持ち、他の施設に人々を誘い、また施設間の連携強化に努めます。

(2) 施設整備

ア 施設整備の方針

- (ア) 建築デザインは、松本らしさを表し、多くの市民の合意が得られ、市民の誇りとなるとともに、デザイン自体に魅力があって集客効果を持つものとしします。
- (イ) 国宝松本城など歴史的建造物が集積する本市の歴史的特色を踏まえるとともに、市の景観条例にのっとり、歴史的景観と調和する建物としします。また、長い時間が経過しても陳腐化しないデザインとしします。
- (ウ) 建築計画に当たっては、外観だけではなく、内側から屋外を見た際の借景的な景観にも配慮しします。
- (エ) 市民が構えずに普段着で立ち寄れるような、親しみの持てる雰囲気づくりを行います。
- (オ) UDにより、障がい者、高齢者、子ども、外国人を含むすべての人が等しく利用できるよう配慮しします。利用者の意見を取り入れながら計画するとともに、開館後も随時見直しを行います。
- (カ) 環境に対しきめ細かく配慮した施設整備を行います。
- (キ) 災害時などには、近隣の博物館等の資料を一時預かりできたりするような堅牢な施設と空間を確保しします。

(3) 建設場所

ア 市街地への建設について

基幹博物館は、市民などが利用する施設であるとともに、多くの観光客からも利用される施設です。人の流れをつくり賑わいをもたらす博物館は、建設する近隣商店街の活性化とも結びつきます。

(7項目の要件略)

松本市基幹博物館整備に関する市政方針等

1 松本市総合計画 基本構想 2020・第 10 次基本計画（平成 28 年 3 月）

(1) 5 つの重点目標

- ア 地域包括ケア体制の整備や地域づくりの人材育成など、心と体と地域を支える「健康ときずなづくり」
- イ 松本地域で医療機関等と協力した出産体制を維持し、子どもや子育てを包括的に支援する「次世代を育むまちづくり」
- ウ 松本ヘルスバレーの構築、新観光戦略の推進、伝統地場産業の育成、女性や若者が活躍できる社会づくりによる、「経済の好循環の創出」
- エ 次世代交通システムの具現化と地域公共交通の維持や、新エネルギー戦略などによる、質の高い「暮らしと生活の基盤づくり」
- オ 「基幹博物館・市立病院の建設」、「市役所新庁舎建設計画の推進」、「中部縦貫自動車道・国道 19 号等の広域道路網の建設促進」、「松本空港の国際線対応等の機能強化」など、「将来世代のためのハード整備」

(2) 基本施策

- ア 基本施策 5-1-2 中心市街地の賑わいの創出
地域資源を生かしてまちの魅力を高め、多くの人が住み、働き、訪れ、憩う、賑わいのある中心市街地をめざします。
 - ・目標実現に向けた主な取組み
都市再整備事業（松本城三の丸地区整備、公園通り再整備他）（他 7 事業略）
- イ 基本施策 6-4-1 歴史・文化資産保護・活用の推進
文化財の保存・活用を通じ、市民が地域の歴史・文化資産に親しみ、価値を学び、郷土愛を醸成して、地域の宝を次世代に引き継いでいくことを目指します。
 - ・目標実現に向けた主な取組み
基幹博物館整備事業／まると博物館推進事業／博物館展覧会開催事業（他 11 事業略）
- ウ 基本施策 6-4-2 城下町まつもとにふさわしいまちづくり
松本のまちを形成する核であり、市民共有の宝である松本城を保存し、城下町に暮らす市民の誇りを守り育て、「松本城を中心としたまちづくり」を通じた、品格あるまちをめざします。
 - ・目標実現に向けた主な取組み
松本城史跡整備事業／松本城南・西外堀復元事業／大手門枳形周辺整備事業／歩いてみたい城下町整備事業／時代に即した「城下町まつもと」の再生策の検討（他 5 事業略）

2 平成 28 年 2 月定例会 菅谷市長冒頭あいさつ

ここで、この 3 期目に、20 年先、30 年先を見据えた持続可能なまちづくりのため、特に重点的に取り組んでまいりました 5 つのリーディングプロジェクトについて、それぞれ概括的に申し上げたいと思います。

初めに、松本城南・西外堀の復元、大手門枡形の整備など、松本城を中心としたまちづくりについて申し上げます。

(略)

また、松本城の正面玄関となる三の丸地区は、松本城を中心としたまちづくりに欠くことのできない重要なエリアとなりますことから、昨年 3 月にその整備に係る基本方針を策定し、現在、この方針に基づき、歴史ある町割りや景観を生かしつつ、都市機能の一層の向上を図り、市民や観光客の皆様がそぞろ歩きのできる空間の創出に向けた、具体的な整備計画の策定に鋭意取り組んでいるところでございます。

3 平成 28 年 2 月定例会 菅谷市長答弁

【議員】

次に松本城を中心としたまちづくりの、まず松本城とその周辺整備計画について質問をいたします。・・・・・・・・

松本市立博物館の移転、そして松本城南・西外堀の復元・・・・・・・・まずこの 2 つの事業を決断した市長の思いをお伺いいたします。

【市長】

私の決断ということでお答えいたします。

過去の議会でのご質問にもお答えいたしました。私は市長就任以来、常に松本市は松本城あつてのまちであるということをお申し上げてまいりました。松本城は私たち市民の誇りであり、心のよりどころであるという思いは常に変わらずに私の心の中にあり、私の施策の基本となっております。

30 年来の懸案事項でありました松本城南・西外堀復元と内環状北線整備並びに松本市立博物館の移転は、その規模から多くの関係者にご迷惑をかけることが想定されることから、これまで事業化に逡巡したのではないかと感じております。しかし、私はあえてそれを承知の上で、また二の丸町会の皆さんを初めとし、多くの方々に大変なご負担をおかけすることがあってもご理解をいただけるよう努力に努力を重ね、どんな苦難が伴おうともなし遂げることが私の使命だと決断いたしましたのは、先ほどの私の松本城に対する思いがあったからでございます。

私はこれまで一貫して命の質や人生の質を高め、量から質への転換を基本理念とし、健康寿命延伸都市・松本の創造を松本市の目指すべき将来の都市像として掲げ、その施策の一つとして松本城を中心としたまちづくりを本市の市政運営の重要課題に位置づけてまいりました。この松本城を中心としたまちづくりは、中心市街地及び松本市全体を活性化させ、松本市の魅力をさらに増大し、必ずや 20 年先、30 年先を見据えた持続可能なまちづくりを図ることができるものと確信しております。

4 松本市役所HP 菅谷市長あいさつ

「健康寿命延伸都市・松本」の推進に向け、次の5つの重点事業を積極的に推進してまいります。

(略)

- (5) 「基幹博物館・市立病院の建設」、「市役所新庁舎建設計画の推進」、「中部縦貫自動車道・国道19号等の広域道路網の建設促進」、「松本空港の国際線対応等の機能強化」など、「将来世代のためのハード整備」

これらの目標の実現を目指し、子どもが未来を語り、若者が地域づくりに参画し、高齢者が自身の知識や経験を地域で生かし、それぞれの居場所で生きる喜びを実感できる、「生きがいの仕組みづくり」を進めてまいります。

松本に暮らしていることに幸せを感じることができ、誰もが「品格ある松本」と感じていただけるまちを市民の皆さまと共に創りあげていくため、私も全身全霊を傾け、市政運営に取り組んでまいります。